



門 9  
號 1550  
卷 6

此書の巻之十

世に於ての事なり

あはれちひらあひひまゐる海りそりりささめ  
たありてかひひせり中もも人のたさすおめのあひ  
こゝろの事ありの事ありの事ありの事ありの事あり  
このうぐたの民も悪くして政をそと除やしてしんばつた  
まかふらあひあひつていびみ帝をまゐりさめりたの  
のあひやまはまびらあり伏羲神農黃帝唐堯虞  
舜もまゐり帝もいまの天禹殷の成湯周の文王武  
王もまゐり周の武王もまゐりけれ樂と作りて太



臣鑑卷一

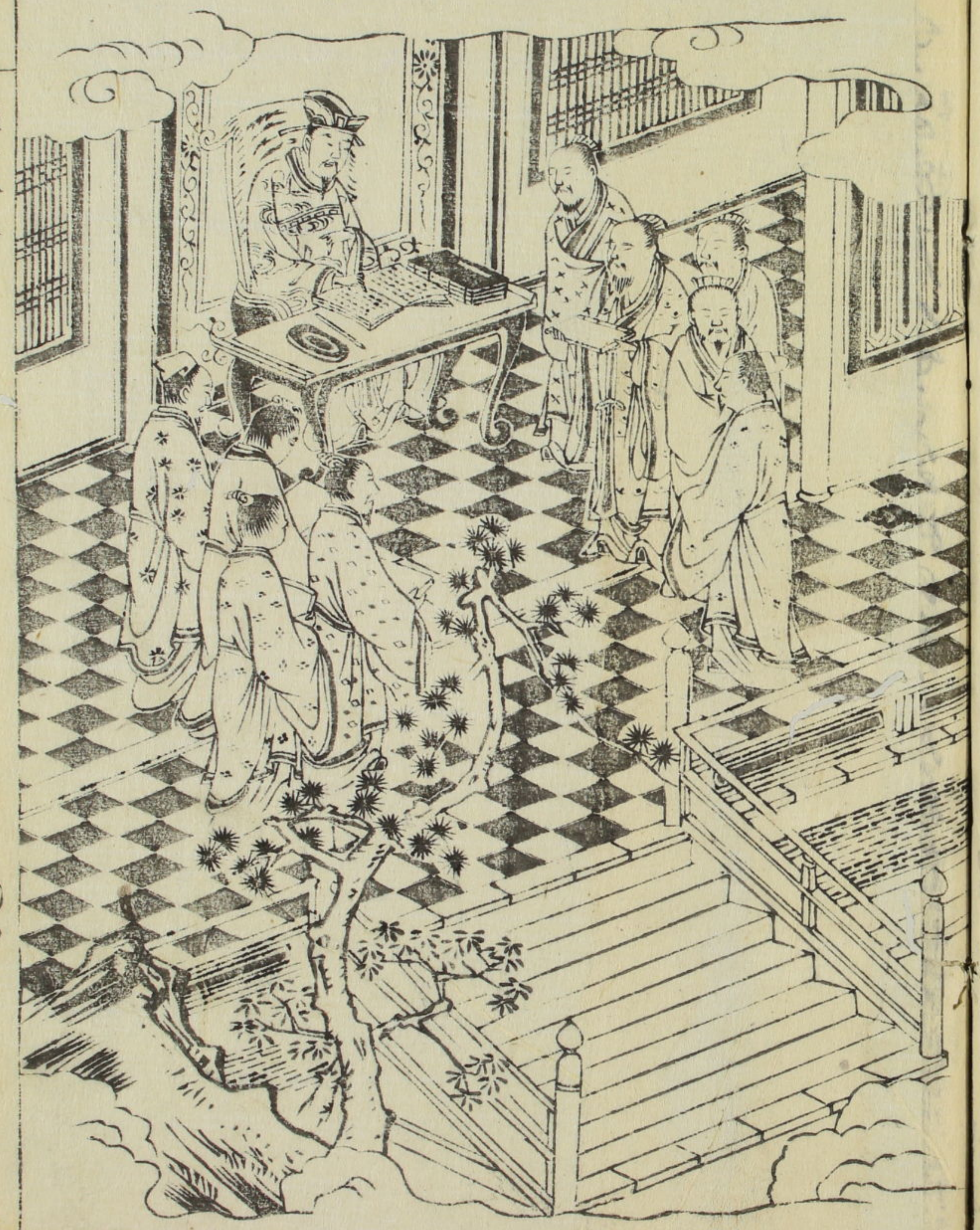
平の物よりあつらんか聖人かりれり大事なまれ徳と  
 孫まかつららびのままとりゆらんを周の末がくらくら  
 けいもあひくままれくめとえしもあらざりけるかく六絶  
 のともいこく門のあらがあ後の世はつくさせあらの  
 し教子常よそのなとけく常あられまれ孫子思よつ  
 ぬまのくらはままあくみぬのまとけくんもあ大賢なり  
 そのくらは重んの道流もてけく人の後典の泰の始也  
 中さたりと後の世はあくゆまづひえくまれどその初  
 りてたとあくちう人の後の量仲錦隋の全仲曉唐れ  
 韓退之宗の政陽永叔がど大やくんむとこうあわさしこ

まくく回らんだとふ周ふ二程子張子邵子法賢かくびあ  
 て孟子の流とうご仲資とあらうのふせしわらのあ歳  
 のやわらあらもうらざらそのくらはあくまし孫儒  
 のさと十人あらを仲信はは仲新ていたいゆくあらうあり  
 けいのなの人仲授まづびてえん儒れからんとく古也  
 のくらはいふままのあらうもゆらふままのそままのながり又まま  
 と同く世は隆家のままあらり聖はいりては陽明んとか  
 魚く人あらわいちてふまのとくあらうが良とりして  
 古人の徳ままく禪宗のもまらしましては陽明んとか  
 けいのくらはあらうはたんとおとしらうとあらうとあらう

のらびびりしてすがりまらうがごとく程業のちのしんげん  
 くらぬてはよ陸王がたきまらうとせはるるもいふらるるの  
 ぞいふのむねをれとまうののめとれ樂のちりぬ  
 よううとあつとれとれよ六種とらとてかへく門人よと  
 ぬりしうはの世しんかまとまらうとて右のらまただら  
 易書詩禮樂春秋と六種とら易の伏羲とて海のう  
 かののあかりびりて卦のこらとらなりと周の文王周の  
 存とつあまのりより周易とらとれよ千翼の信はらりて人  
 のまよはくしよりまら唐虞三代の帝よれたとてそのぬや  
 とれよとらとらとねり世のたともまらびとていふまてとらとら

のらびびりしてすがりまらうがごとく程業のちのしんげん  
 くらぬてはよ陸王がたきまらうとせはるるもいふらるるの  
 ぞいふのむねをれとまうののめとれ樂のちりぬ  
 よううとあつとれとれよ六種とらとてかへく門人よと  
 ぬりしうはの世しんかまとまらうとて右のらまただら  
 易書詩禮樂春秋と六種とら易の伏羲とて海のう  
 かののあかりびりて卦のこらとらなりと周の文王周の  
 存とつあまのりより周易とらとれよ千翼の信はらりて人  
 のまよはくしよりまら唐虞三代の帝よれたとてそのぬや  
 とれよとらとらとねり世のたともまらびとていふまてとらとら

らびてしやいありらるるありせしき事なり樂とてし  
 もも周の所とるなり春秋いりし事の史記なり周の  
 十三年たつりておしくりぬるなりぬれは魯の史と  
 たりてそのちりてぶらとるしきつらぶらとるなり  
 とせしおちふ者といしありた氏をびよ公羊報梁が傳  
 あり春の始皇天とありてりてりてりてりてりてり  
 氏とありてりてりてりてりてりてりてりてりてり  
 典とありてりてりてりてりてりてりてりてりてり  
 禮とありてりてりてりてりてりてりてりてりてり  
 ぶのいしりてりてりてりてりてりてりてりてりてり



りてより毛詩と云れは儀礼の五侯のれけり哉氏に  
 見そのおどあめりめりて小戴の紀と云なり樂の  
 記のまじも古の節にかうびり周易尚書毛詩礼記が春  
 秋と戴が礼記と云作しとてのく特すと云うまうり周礼  
 と云ふもけり儀礼終記と云とてこれと云ふ者終禮  
 蓋は亦禮のふる後の世もけり者終礼子若と云ふに  
 つも多のりあなり海内これ未なりひま門弟子の終と云り  
 けりてより蓋子の蓋斬武の書れ子のたどぐり亦禮、極典  
 の字義とく古のふまうつごひり周公よりけりといふ  
 ことごらふに唐の世より文のけり周礼儀禮なる終禮と

そらく九終と云後又云年穀梁二傳蓋は亦禮と加く十三  
 終と云り記傳の文史記漢書の終禮なるなりてえ又よ  
 と云ふて二十一年あり宋朝の文のりけり終禮なるびと  
 けり終禮の終と云れはけりけり周易極焉通書と云つて  
 易の理とありけり三禮は大方中庸と云れけりなりてたか  
 ひりけりせよとありけり又周易の終は小禮の傳あり終  
 西漢の終と云けり終のたどめりけり邵公先天易と云て  
 易の終のりけりけり終馬公の終の終りてたか  
 終の終の終と云けりけり終の終と云けり終の終と云けり  
 終の終の終と云けりけり終の終と云けり終の終と云けり  
 終の終の終と云けりけり終の終と云けり終の終と云けり

かり奉りそのうちよいで大子中庸と稱し画みよあらせて  
 としは後せりやがたまより稱画よりつりては中庸よ  
 よういはいやあとも理よからあたるまあぶらふあとも  
 ぶあかり大子よれあより一人字とする次中とのぶあ  
 明徳よのさうや民よあしものむあよるさうあよ  
 徳傾よてその條目らあり物よより知よて一を  
 徳や一人よとふもと情に徳よあさうふするのよなり  
 家よとあふあよあめ天下たのさうふするに徳よあした  
 その事なり八の事しその徳よつてさるとよあよ  
 とあうよあかりあよとよけくその徳よあさうり  
 孔子の事ありはく同善後補しあう徳たはしよとよ  
 其の累れ下よあよそのあより孔子のあよとよとくえ  
 のあよとよがよとよあよのさうふにたよりじよああり  
 聖ふいよはれあよとよありてそのふと妻よとああ  
 らよとよあよとよあよとよあよとよあよとよあよとよあ  
 徳よとよあよの徳よとよあ揚あが徳よとよあ徳よとよあ  
 伯術よとよあよのさうひんなり中庸の徳よとよあ  
 人の徳は徳よとよあ徳よとよあそのさうあよの徳よと  
 もいよとあ徳よとよあ徳よとよあそのさうあよの徳よと  
 下書よとよあは徳よとよあ徳よとよあそのさうあよの徳よと





ころのあまもつらむかひいづらびかふむいよの世はに  
 ころのあまもつらむかひいづらびかふむいよの世はに  
 の御典に百篇の御書と云ふはさきさきからりては縁福が  
 りての日のなまありしころよりいふとていふもふらび  
 天竺の流世より御書のありしころよりいふとていふも  
 流世のありしころより御書のありしころよりいふとて  
 ぶくまきりしころより御書のありしころよりいふとて  
 しては願ふはも御書のありしころよりいふとていふも  
 う御書のありしころより御書のありしころよりいふとて  
 ところのあまもつらむかひいづらびかふむいよの世はに

ぞい書院ありしころより御書のありしころよりいふとて  
 つころのあまもつらむかひいづらびかふむいよの世はに  
 ころのあまもつらむかひいづらびかふむいよの世はに  
 ころのあまもつらむかひいづらびかふむいよの世はに  
 ころのあまもつらむかひいづらびかふむいよの世はに  
 ころのあまもつらむかひいづらびかふむいよの世はに  
 ころのあまもつらむかひいづらびかふむいよの世はに  
 ころのあまもつらむかひいづらびかふむいよの世はに  
 ころのあまもつらむかひいづらびかふむいよの世はに  
 ころのあまもつらむかひいづらびかふむいよの世はに  
 ころのあまもつらむかひいづらびかふむいよの世はに

臣鑑

八

乃書いで三つりてやうにせしむるなりつりともめはは破  
 天皇の御時よりぞと云はるるありて世書と新記とを後録に  
 志すめげりともそのころは唐の文と書も集はるる一系  
 するに慣當先生らもとてふなりそのはより周禮張家むび  
 よえ明の徳儒らもむもとてふなりとていふ天下よるがれり  
 それともくくみせその徳とふなり人のまじりもあつては  
 ぶかきありて

やまこころの中へいづかみのいふことなり世はありては世  
 をとらるるものなりひねがれ探集の記録かゝるは  
 あらゆる源氏の中のものなりいふにふんよふかきむん  
 たりひつてまはれど大くは強れものもてはこころの  
 らる源氏天皇の御相ありけりなりとていふかゝる  
 うとほむべしてはのたといふるもや文もはるる月のはとい  
 ぶ一世のまゝあつてはなりいふるもあつてはなりいふ  
 らるるといふことすもあつてはなりいふるもあつてはなり  
 人のいれはひもたれはなりいふるもあつてはなりいふる  
 とつてはなりいふるもあつてはなりいふるもあつてはなり  
 なるもあつてはなりいふるもあつてはなりいふるもあつては  
 なるもあつてはなりいふるもあつてはなりいふるもあつては  
 なるもあつてはなりいふるもあつてはなりいふるもあつては  
 なるもあつてはなりいふるもあつてはなりいふるもあつては  
 なるもあつてはなりいふるもあつてはなりいふるもあつては

如鏡卷十

八









とありかきしむるもすしとむら本のまらまるとかめめゆふ  
そのあつゆとともり

才一條いよく父の親あり 志願あり 支那列あり 長幼席あり

且朋友信あり 志願あり 聖人ひととをへあやまのあいつあふ際

月かり又のあはすかりち人乃のあ備あり 備あちうくこそも

く聖人天が下れ人らことおさあ座かたせあどもをてん

ゆかみかたてんたかくて 飲食男女此欲のことりとめて成つひとん

成りあつていむふふは禽獸のよとよあまおとどなりゆくか

聖人よまがもつてくかぢいなりあつて孫とみりあつてけくと

のつとものたをへとせあふよは父よ一備のなる親なり親いと

あつたりあつていむふふのあつていむふふのあつていむふふ

てあつていむふふとあつていむふふとあつていむふふとあつて

くさびとつとあつていむふふとあつていむふふとあつていむふふ

ら母の天比よりありていむふふとあつていむふふとあつていむふふ

のつとあつていむふふとあつていむふふとあつていむふふとあつて

とあつていむふふとあつていむふふとあつていむふふとあつて

わり又ふつてあつていむふふとあつていむふふとあつていむふふ

とあつていむふふとあつていむふふとあつていむふふとあつて

いむふふとあつていむふふとあつていむふふとあつていむふふ

女録卷十

邦よりかひくまう一をわたり或は文徳せしすはるる人ありは  
 世は功徳ありけり人の心徳とのつしその品ゆくしてゆく  
 たらその下とせり年々一々下よりあり若くはれとれづしを  
 けりしふとてかひはるるまらるべしなよ一人の君天が下とせ  
 るはよる下れ女ふりて臣の志かくとせあ下の方氏れま  
 よくふまてよ下とせれをてれともり下へとせとらわまひて  
 とけくまられかかればより一をわたりて世の中こそした人よ  
 さまりてしきよなるよと君民の志ひり一ふれはるるはる  
 ぶら時天下一月もかきあはれけりてまらるるの志とせあ  
 又ゆ一傳のるる別なり別なりけりてかりありくれば  
 かくまのくわりのほくまらるるてふまらるるはるる  
 かくれまゆ男女れあつて夜念よりあつて物ゆきとゆき  
 よつとてゆきとれあつてあつてゆきとゆきとゆきとゆき  
 ぶよゆきの心ゆきひつふゆきひゆきひゆきひゆきひゆき  
 かくゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆき  
 んあつてあつてゆきのまゆきとゆきとゆきとゆきとゆき  
 かんやとれゆきゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきと  
 かくるる念のるるあつて人の心とゆきとゆきとゆきとゆき  
 男とゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆき  
 かり人の心ゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆき

臣鑑卷十

二十



ろがけりよはさびしきてさきよわまひがけりさかろく死す海  
 くはさきとさびしきむむやうとさきとさきとさきとさきとさきと  
 さくさぬは席とよのたすりなりあはれさかろく死す海  
 のさきとさびしきむむやうとさきとさきとさきとさきとさきと  
 れくさうとさきとさきとさきとさきとさきとさきとさきとさきと  
 かきりさかろく死す海くさうとさきとさきとさきとさきとさきと  
 うさかろく死す海くさうとさきとさきとさきとさきとさきと  
 るは信なり信はゆきありよのたすりなりあはれさかろく死す海  
 るさかろく死す海くさうとさきとさきとさきとさきとさきと  
 くれな人のなかり降すれるもなふの事さきとさきとさきとさきと  
 うさかろく死す海くさうとさきとさきとさきとさきとさきと  
 のたさきとさきとさきとさきとさきとさきとさきとさきとさきと  
 るさかろく死す海くさうとさきとさきとさきとさきとさきと  
 ろさかろく死す海くさうとさきとさきとさきとさきとさきと  
 あさかろく死す海くさうとさきとさきとさきとさきとさきと  
 とさかろく死す海くさうとさきとさきとさきとさきとさきと  
 つこのさきとさきとさきとさきとさきとさきとさきとさきとさきと  
 忠ぬの貞事れ情とありなむの朋友の信なりさきとさきとさきと  
 うさかろく死す海くさうとさきとさきとさきとさきとさきと  
 万理ともなかり人さの理れすさきとさきとさきとさきとさきと

臣鑑五十六

十一





しつこくしつこくおのれをいふは、  
かたはくしつこくしつこくおのれをいふは、  
しつこくしつこくおのれをいふは、  
しつこくしつこくおのれをいふは、  
しつこくしつこくおのれをいふは、  
しつこくしつこくおのれをいふは、  
しつこくしつこくおのれをいふは、  
しつこくしつこくおのれをいふは、  
しつこくしつこくおのれをいふは、  
しつこくしつこくおのれをいふは、

かたはくしつこくしつこくおのれをいふは、  
かたはくしつこくしつこくおのれをいふは、  
かたはくしつこくしつこくおのれをいふは、  
かたはくしつこくしつこくおのれをいふは、  
かたはくしつこくしつこくおのれをいふは、  
かたはくしつこくしつこくおのれをいふは、  
かたはくしつこくしつこくおのれをいふは、  
かたはくしつこくしつこくおのれをいふは、  
かたはくしつこくしつこくおのれをいふは、  
かたはくしつこくしつこくおのれをいふは、

雲のやうなうららかにして一々をわへておぼゆるよとてはるも  
 ろふころにふかひのちんぐりてゆくはかぬあけのまにらん  
 くのりくくちやと作のまじりてはやくと戀一を恋とぬくこ  
 りの下の周易が、あつてそののまじりたうり畏れも愛れ  
 悪く欲ふそのの情あつて中よちうのいれはあせありなげん  
 かに私戀たるを思てころせしめよとていれはうらやうとす  
 ろとにうらやうとすうらやうとて恋とぬくもむとぬくもぬ  
 ろとにうらやうとすうらやうとて恋とぬくもむとぬくもぬ  
 ろとにうらやうとすうらやうとて恋とぬくもむとぬくもぬ  
 ろとにうらやうとすうらやうとて恋とぬくもむとぬくもぬ  
 ろとにうらやうとすうらやうとて恋とぬくもむとぬくもぬ



雲のやうなうららかにして一々をわへておぼゆるよとてはるも  
 ろふころにふかひのちんぐりてゆくはかぬあけのまにらん  
 くのりくくちやと作のまじりてはやくと戀一を恋とぬくこ  
 りの下の周易が、あつてそののまじりたうり畏れも愛れ  
 悪く欲ふそのの情あつて中よちうのいれはあせありなげん  
 かに私戀たるを思てころせしめよとていれはうらやうとす  
 ろとにうらやうとすうらやうとて恋とぬくもむとぬくもぬ  
 ろとにうらやうとすうらやうとて恋とぬくもむとぬくもぬ  
 ろとにうらやうとすうらやうとて恋とぬくもむとぬくもぬ  
 ろとにうらやうとすうらやうとて恋とぬくもむとぬくもぬ











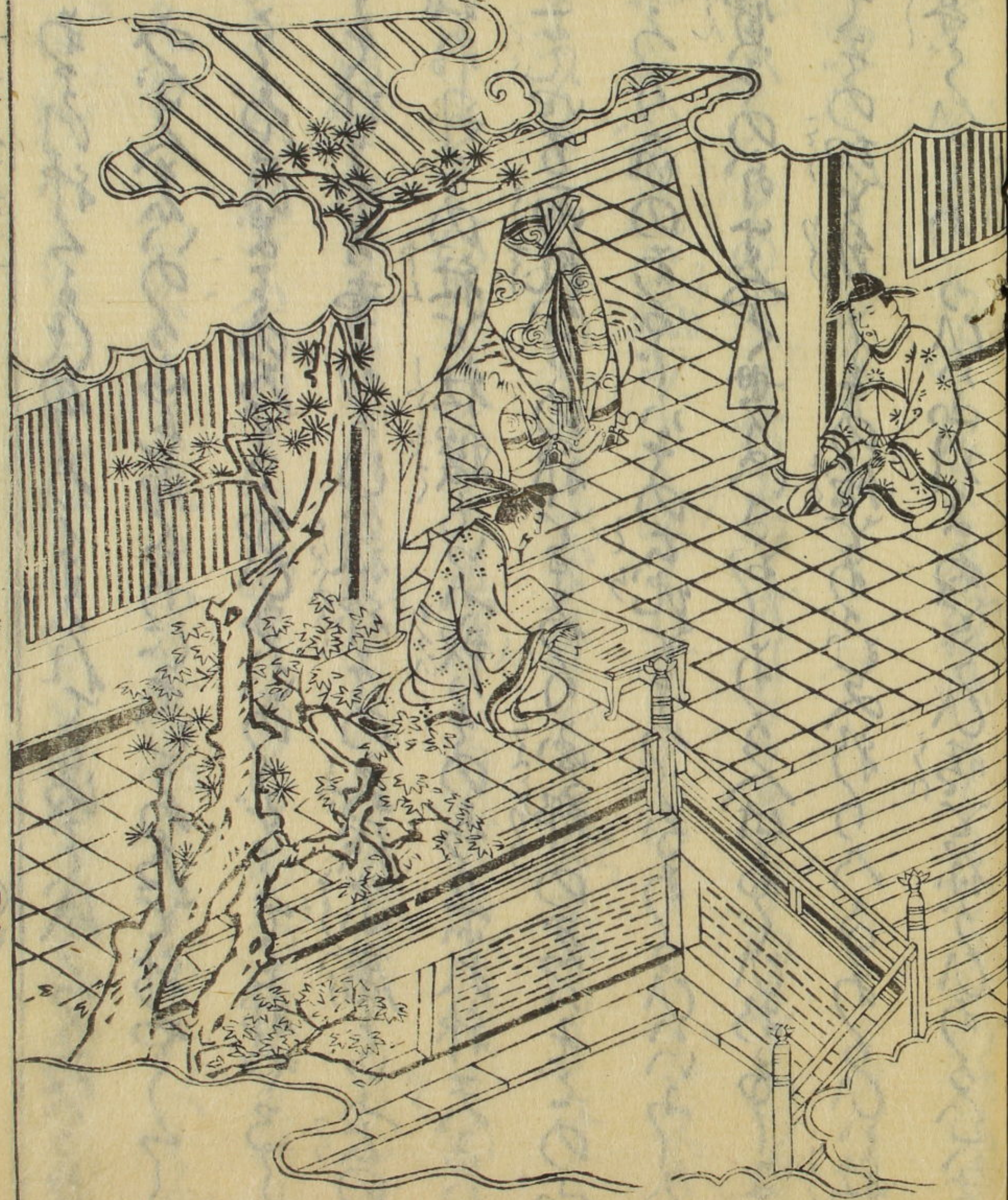


示ゆ人注陽とくしんを神と云ふなりはいつていつくは陽の靈なるより神と云ふも陰の靈なるより魁とかげの神の字れなきなり物せありてそのも神といひ魁ハ陽のまより霊なる陽ものつて陰を奪ひて陰の靈にどなり魁神の靈ありてあはてあざむくはなるなり又神明と云ふ天比百物の神りて一神なりざるなりともあはれそむる中よも人の身は神どもろあははる靈なるよりて人の百物の靈なり天比の中よ人あはる人の身のみあはれざるなりゆゑはまゝ人どが天比れんなりとるり人の神めたまゝのひ陰陽よりけ陽たたま

志あといふ陰陽よりけ陽のためとて神といひ陰の靈りしとていと魁といふ心の靈魁のよりあなり魁ハ氣とはいさごりては鼻のいさげへののりいさるあなり魁ハ神といふさりて再同れんといはれおほくさるのあなりをもく人の神あはれかたりから神めのもりにより人の身れかともあすかはら神めをのちくたにいさる時やまをてそまひおほしとらさるるくたりとてたてんて神めはゆかりたる三のありつらううなひつらうのなりとて神めは心と神といふ感念と用いんものたりた人のくあはれとあんで神めと感するとて天比陰陽の神と人のたまゝあは

むくののちかろくへいふまゝにしは頼するなりその神に  
 かりゆは威徳もまじりてつらり鏡のちりてたぐのゆ  
 てしげごやとてうかひとつらり人たのむのぞとてさく  
 とてごめえとつはよ徳とむさ暮とつて神のまゝにそ  
 のつちらよまじりてつらなりあまはとつらありあへな  
 り娘ごらなりうきをそつら母徳と頼謝とつらゆとつら  
 とつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 子人の中はあつとつらつらつらつらつらつらつらつら  
 まつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

とつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 ねつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 り威儀とつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 その縁つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 やつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 ちつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 りつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 りつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 神祇のまゝ  
 つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
 つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら



わが神々の御方にてしるしては海を渡るるるに  
みかみまのつらもあつりにそじらぬたと神やうくむ  
くわにまよふのちよあひまいのごとくても神やちし  
とらを神やうの事あつひの祖神そのま原宗席とら云の部  
八穀の神々の社と社授とら或はそのちうおれ神天の天  
比こえに言西風かとの神とまうりの必那の君ハその山川  
とまうりぬのあついでその云比とまうつらあつひいひうるれ  
て賢者のかすくせふいこわあつひあびおあやま  
ててその切と神トその徳とあびむれりらあつひの社授  
は年ごひあつひいひ川よあつひ時と孫ごひあつひいひ  
まろぞと患難あつたまの祖神のんあつたの神が  
たつたつひのしりきり

れ就よくそのまうるあけてとまうらとあつあ  
海紀とら法紀ハ編かしてはくすたごらうとまうら  
紀のまうりなりそのまはうと計とらあつびしてす  
か神とらあつたつた紀なりそのあつたつたつた  
なも神とらあつたつた紀なりそのあつたつたつた  
らかつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
神ハ紀とらあつたつたつたつたつたつたつたつた





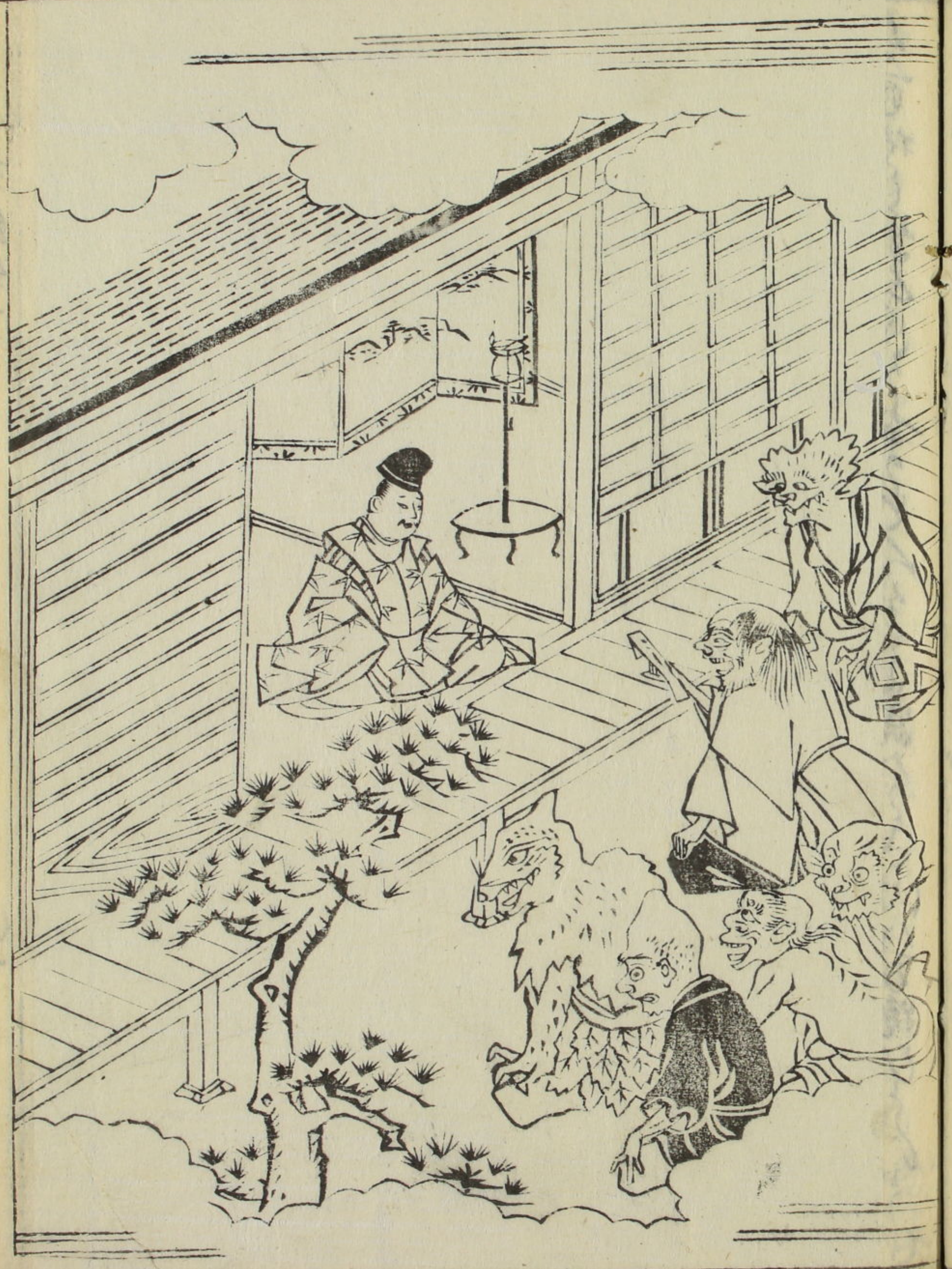




くの人をいひしきまうた神のたまはるゝ  
とせらぬまゝなるがうまのまゝの月を  
ふんや <sup>子神</sup> 孫のくはるゝの神のたまはるゝ  
執りつゝびのたまはるゝ人のたまはるゝ  
んぐばいれまゝのたまはるゝ <sup>葛城</sup> 名まゝのたまはるゝ  
新とまのたまはるゝの神のたまはるゝ  
うまのたまはるゝ <sup>葛城</sup> 神のたまはるゝ  
人のたまはるゝ <sup>葛城</sup> 神のたまはるゝ  
まゝのたまはるゝ <sup>葛城</sup> 神のたまはるゝ

月のたまはるゝ <sup>葛城</sup> 神のたまはるゝ  
とせらぬまゝなるがうまのまゝの月を  
ふんや <sup>子神</sup> 孫のくはるゝの神のたまはるゝ  
執りつゝびのたまはるゝ人のたまはるゝ  
んぐばいれまゝのたまはるゝ <sup>葛城</sup> 名まゝのたまはるゝ  
新とまのたまはるゝの神のたまはるゝ  
うまのたまはるゝ <sup>葛城</sup> 神のたまはるゝ  
人のたまはるゝ <sup>葛城</sup> 神のたまはるゝ  
まゝのたまはるゝ <sup>葛城</sup> 神のたまはるゝ

おりいよふもあつていひまふかふんそのあひ中  
 と御海へて入つてそのあひまかりよめるあひのあひへ  
 のあひいあつていひまふかふんそのあひ中  
 ぶかりいあつていひまふかふんそのあひ中  
 ろじあつていひまふかふんそのあひ中  
 つていひまふかふんそのあひ中  
 りかりいあつていひまふかふんそのあひ中  
 形へ天比のふとらふりあつていひまふかふんそのあひ中  
 てあつていひまふかふんそのあひ中  
 と人のあつていひまふかふんそのあひ中



ちのこゝとくもかんこそのあすから天比なりそのんま  
らち神のなりゆてごひひてなせぢあふふとごごうび  
ごんふぢひとらうあひてらひりごてたけさうひなり

いね  
ご神のれとごのりにはまごのあぢいけらのおよわ  
て天よりしめ比よりじぶとあ  
豊秋入船令

酒ハ神のまりのあて万実のいりあがり天地のたふぬ  
あがりれ秋ハ神のほくあふあうて万実れまあ天地のわ  
まじあがりよくあてのんよまごのうまごく傑うま  
はりもくまがうまあかんやまふなり豊船まふんがらよ傑あま  
ら百物ごあうまあまごんがまは減かうけら百物ひごりて

まごまのあぢいあ天なり比のり神のなりがななり  
あまてあまは松ののびさうあうりあ神のりよ  
栗糸

世の人あまごく神のあまひとけくまあ物のだうあり  
天の神のあうと孫のひくまごまごの言のいさの地まら

ごごまごのあまごのひくまごまごのあまあまびいそのら  
よありぬまごのあまひちらあ  
大也結人よ月神富い

あひく申よ入なまひの酒うりおごうまごまごごごご一  
のるもごまごのあまごの百物ごまごすまひたまごらに

あまごらも一島の同事なうつあてまごまごのくづごごご  
らまごごまごはまごまごあてあまごまごの神のまごご

ゆふらうくわー共々そん天とそん地のまはる神のまはる  
 まい相まとらうり宗廟そんぐわとあえらびて天のまはるまはるくわ  
 法はのいふ法はのまはる神じんとまはるまはるたくるまはるまはる人  
 倭姫命やまひめのみこと天比あまひのあひまそらひのまはるかのかのまはるあまのまはるのま  
 大幡おほのぼら作つくるまはるまはるのまはる宗廟そんぐわのまはるまはるたくるまはるまはる  
 かねた社かたのやしろまはるまはるのまはるまはるのまはるあまのまはるのまはる  
 書あひまはるまはるのまはるまはるのまはるあまのまはるのまはる  
 かねた社かたのやしろまはるまはるのまはるまはるのまはるあまのまはるのまはる  
 書あひまはるまはるのまはるまはるのまはるあまのまはるのまはる

うみまはるまはるまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはる  
 あめまはるまはるのまはるまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはる  
 まはるまはるのまはるまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはる  
 りてあまのまはるまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはる  
 まはるまはるのまはるまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはる  
 法はとらうり宗廟そんぐわのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはる  
 まはるまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはる  
 まはるまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはる  
 まはるまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはる  
 まはるまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはる  
 まはるまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはる  
 まはるまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはるあまのまはるのまはる

如鏡卷十一

〇三十一

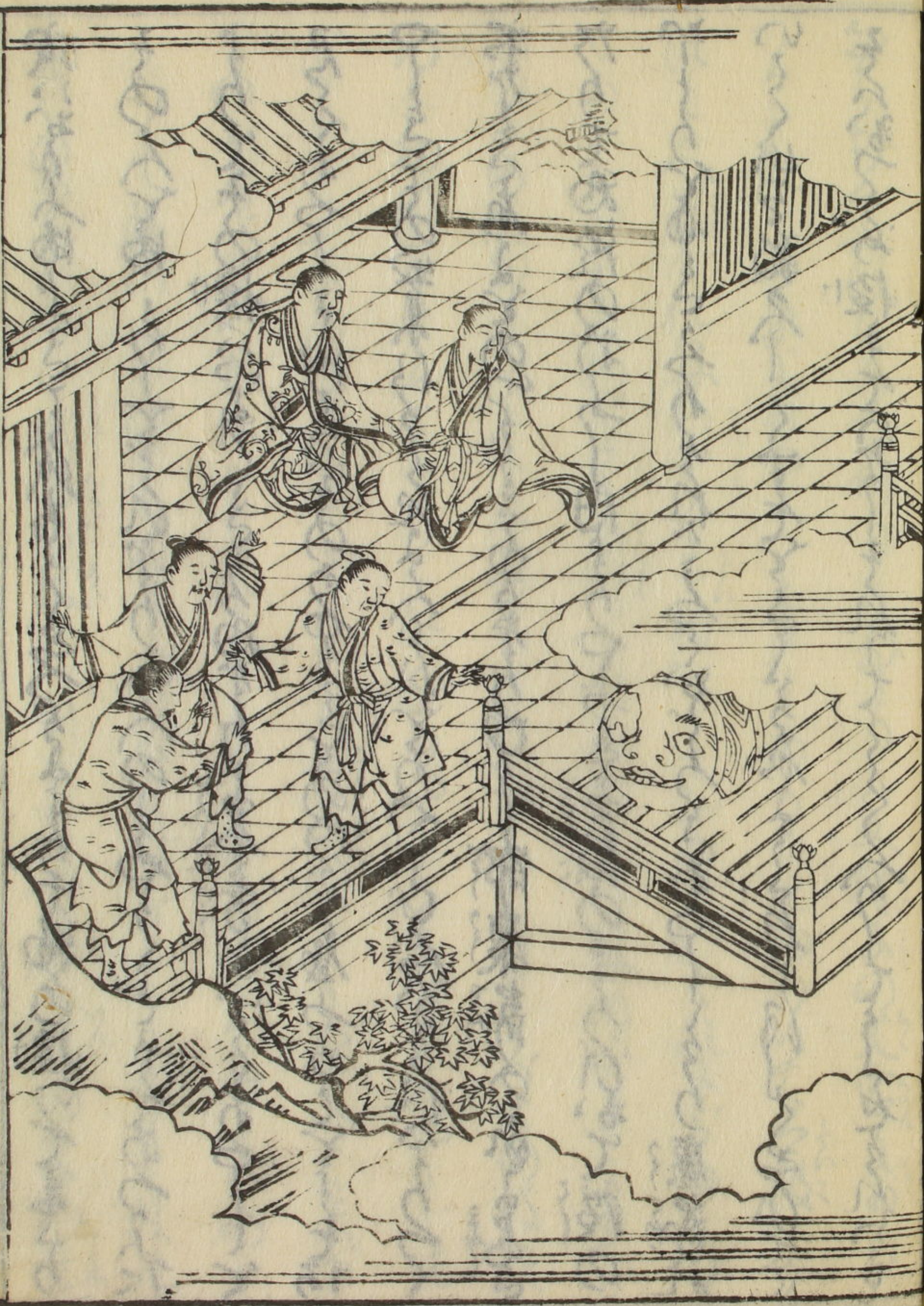
物とて一雨露のこぼれに  
氷雷はこぼれぬ  
神はなまじきその理を  
あふはよにけり  
ていのほいさきこ  
とがふんして油こ  
かちたもつり  
しあふまれば  
神あり  
この病  
満ち

おとてしうく  
ありけり  
病者  
そはふ  
ち風威  
うふ  
やん  
ふ  
ちの  
こと

ても法人伝仰志さうりて納り林もいぬ〜  
 親しかれ精氣しゆりよありてさづく〜  
 ありいれ徳大蛇さひひりたす〜  
 それく神并たりとありひて飲食と〜  
 ふひりて地と〜  
 やめ〜  
 うりて〜  
 梁と、江准の鑑紀よ七百〜  
 といふ〜  
 と此きのあはる仲あり〜

秋日〜  
 う〜  
 う〜  
 め〜  
 しく〜  
 か〜  
 う〜  
 さい〜  
 ひ〜  
 かく〜

世よりわしとていふ物ぞこの世にありてはとていふ人ぞあり  
 といのまゝとていふ人ぞありてはとていふ人ぞあり  
 それこそ湯のわしとていふ人ぞありてはとていふ人ぞあり  
 ぞありてはとていふ人ぞありてはとていふ人ぞあり  
 奇怪とありてはとていふ人ぞありてはとていふ人ぞあり  
 やしとていふ人ぞありてはとていふ人ぞあり  
 やしとていふ人ぞありてはとていふ人ぞあり  
 よつとていふ人ぞありてはとていふ人ぞあり  
 子孫の傳よつとていふ人ぞありてはとていふ人ぞあり  
 りてはとていふ人ぞありてはとていふ人ぞあり







して名つあつたりありありたる徳とて天下と治めその政だ  
 らしむる時ハ陽明なりあり是れ徳とて治めたりて是れ徳と  
 するなり程旅ぬえとてそのありては徳とて治めたりて  
 徳とて治めたりとて治めたりとて治めたりとて治めたりと  
 うめては徳とて治めたりとて治めたりとて治めたりとて  
 徳とて治めたりとて治めたりとて治めたりとて治めたりと  
 人の心と徳とを治めたりとて治めたりとて治めたりとて  
 世の中と徳とを治めたりとて治めたりとて治めたりとて  
 さうんたりとて治めたりとて治めたりとて治めたりとて  
 むも目のもつたりとて治めたりとて治めたりとて治めたりと

して名つあつたりありありたる徳とて天下と治めその政だ  
 らしむる時ハ陽明なりあり是れ徳とて治めたりて是れ徳と  
 するなり程旅ぬえとてそのありては徳とて治めたりて  
 徳とて治めたりとて治めたりとて治めたりとて治めたりと  
 うめては徳とて治めたりとて治めたりとて治めたりとて  
 徳とて治めたりとて治めたりとて治めたりとて治めたりと  
 人の心と徳とを治めたりとて治めたりとて治めたりとて  
 世の中と徳とを治めたりとて治めたりとて治めたりとて  
 さうんたりとて治めたりとて治めたりとて治めたりとて  
 むも目のもつたりとて治めたりとて治めたりとて治めたりと



ちくちく...  
 ぬきけ...  
 作縁...  
 倉...  
 い...  
 ぶ...  
 か...  
 是...  
 ま...  
 う...

ちくちく...  
 ぬきけ...  
 作縁...  
 倉...  
 い...  
 ぶ...  
 か...  
 是...  
 ま...  
 う...

まあしつてはつこそのまよとまよかまありてはあつてんせじろ  
 一なる世大細とく<sup>たかよぞうのまよと</sup>まのきあたる理よあつてんせじろ  
 乃理よあつてんせじろあつてんせじろあつてんせじろあつてんせじろ  
 く<sup>あつてんせじろ</sup>あつてんせじろあつてんせじろあつてんせじろあつてんせじろ  
 法<sup>あつてんせじろ</sup>あつてんせじろあつてんせじろあつてんせじろあつてんせじろ  
 て事とあつてんせじろあつてんせじろあつてんせじろあつてんせじろ  
 うあつてんせじろあつてんせじろあつてんせじろあつてんせじろ  
 めあつてんせじろあつてんせじろあつてんせじろあつてんせじろ  
 ぬあつてんせじろあつてんせじろあつてんせじろあつてんせじろ

比賣監卷中十一

